

◆◇植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン vol.104◇◆

2019年3月8日号(第104号)

◇◆ INDEX ◇◆

1. 植物研 馬建鋒教授が「平成30年度日本農学賞」を受賞
2. 大学院入学説明・相談会のご案内
3. 共同研究(者)紹介 =第48回(連載)=
4. 研究成果の紹介:投稿のお願い
5. 編集後記

1. 植物研 馬建鋒教授が「平成30年度日本農学賞」を受賞

農学分野で優れた成果を挙げた研究者に贈られる「平成30年度日本農学賞」(日本農学会)の受賞者が2月12日に発表され、岡山大学資源植物科学研究所の馬建鋒教授が選ばれました。

詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/information/20190218-1.html>

2. 大学院入学説明・相談会のご案内

植物研では、2ヶ月に1回、「大学院進学説明会」を開催しています。次回は、2019年3月22日(金)13:00-17:00に開催します。植物研の大学院に進学をお考えの方は、是非ご参加ください。また、興味のある方へのご周知もよろしくお願ひします。

詳しくは、以下のホームページでお知らせしております。

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/education/education4.html>

HPのポスターの写真にもありますように、その時期倉敷はちょうど桜が咲き始めているころかと思しますので、それも楽しみに研究所にお越し頂ければと思います。

【お問い合わせ先】

岡山大学資源植物科学研究所 鈴木信弘

TEL: (086) 424-1661 E-mail: nsuzuki@rib.okayama-u.ac.jp

3. 共同研究（者）紹介 =第48回（連載）=

毎月ご紹介しています、拠点共同研究の研究者紹介の記事です。

今回は、名古屋大学 千葉壮太郎先生からのご寄稿です。

名古屋大学大学院生命農学研究科／アジアサテライトキャンパス学院
千葉壮太郎

「フザリウム属菌のヴァイロコントロールを目指した菌類ウイルスの探索と同定」

「ヴァイロコントロール因子（菌類ウイルス）の宿主糸状菌感染機構」

私は学位取得からポスドクまで植物研に所属し、長期間を倉敷で過ごしました。共同研究の機会を頂いているお陰様で、所員の皆さまとの交流を保つことができ、在籍当時のまま居心地のよい空間で仕事をさせて頂いております。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、私たちは、植物病原糸状菌を菌類感染性ウイルスによって制御する「ヴァイロコントロール」を課題として研究しています。農業の現場では、病害虫防除のために多量の化学農薬が投入されていますが、環境保全の観点から代替策を取り入れて薬剤使用量を減らす取り組みに期待が寄せられています。とりわけ、微生物を用いた生物防除法の開発は途上国・先進国の区別なく広く展開されていますが、一方で化学農薬に匹敵するほど有効な生物農薬は限定的であり、課題は多く残されています。本研究では、植物病原の約8割と言われる糸状菌に対して、新たな防除法を開発・提供することを目指しています。

実際には、糸状菌を制御し得る菌類ウイルスの探索、分離、ゲノム解析などを、植物微生物相互作用グループのリソース（フザリウム属菌コレクション）を用いて進めて参りました。その結果、旧知のウイルス種から分類学的に新規のウイルスまで多様な菌類ウイルスが単離され、その一部は宿主病原菌の生育や病原性を抑制する可能性があるということが分かりました。また、今年度からは継続課題として、有用菌類ウイルスの生活環を明らかにする研究を開始しました。引き続き鈴木先生にお力添えを頂いて、作物保護に資する研究成果を求めていきたいと思っております。

今後とも植物研が植物遺伝資源・ストレス科学研究を牽引する機関として研究者交流の中核となり、共同研究者の皆さま、PSSNet 会員の皆さま共に、なお一層ご発展されることをご祈念申し上げます。

4. 研究成果の紹介：投稿のお願い

本メールマガジンでは、植物ストレス科学の研究成果を PSSNet のなかで広く共有できることを目指しております。PSSNet 登録メンバーの皆さまの最新成果の論文を

ご紹介ください。

メール本文に以下の形式で情報を書いて pssnet-admin@okayama-u.ac.jp 宛に、以下の形式で情報をお送りください。（注：連絡先のアドレスが変更となっております）

（日本語紹介）＜改行＞

（著者）＜改行＞

（タイトル）＜改行＞

（掲載誌情報）＜改行＞

<例>

分子、細胞、組織レベルでのイネとイネ科植物における耐塩性機構についての総説。

Horie, T., Karahara, I., Katsuhara, M.

Salinity tolerance mechanisms in Glycophytes: An overview with the central

focus on rice plants.

Rice 5:11 (2012)

皆さまの投稿をお待ちしております。

5. 編集後記

2018年度の最後の月になりました。

3月4日から5日にかけて資源植物科学シンポジウムおよび植物ストレス科学研究シンポジウムが開催されます。シンポジウムに引き続いて、共同研究成果発表会も行われます。このメールマガジンが配信される8日にはもう終了してしまっていますが、多くの方にご参加いただければと思っています。盛況で実り多いシンポジウム、そして発表会になりますように。

3月といえば、日本では卒業式のシーズンです。岡山大学は3月25日が学位授与式です。植物研では、（岡山大学全体の授与式が終了した）25日午後から、恒例の植物研学位授与式が行われます。今回（この3月）は、博士と修士で合計5人が卒業（修了）します。植物研で培った知識や忍耐力を生かして、今後社会人として頑張りたいと願っています。

最後になりましたが、PSSNet 委員としてメールマガジンの編集などに携わり、大変有意義な経験をさせていただきました。来年度からは新しい委員にバトンタッチします。

今後ともPSSNet、そしてメールマガジンをお引き立てくださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

「植物ストレス科学研究ネットワークメールマガジン」

■発行日 2019年2月8日

■発行元 岡山大学資源植物科学研究所

植物ストレス科学研究ネットワーク (PSSNet) 委員会

■WEB サイト <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/>

メールマガジン登録変更・解除の手続きは

<http://www.rib.okayama-u.ac.jp/pssnet/Registermember.htm>

でお願いします。

(このメールは岡山大学職員が配信しています)

pssnetml mailing list

pssnetml@okayama-u.ac.jp